水戸市立大場小学校　学校だより
２０２０年度　第３号　2020.4.21

おおばっこ

E-mail　510131@sch.ibk.ed.jp

あいさつと笑顔がいっぱい大場っ子
未来につなげ　大場の絆

Tel　029-269-2103　Fax 029-269-2159

大場小学校のピアノ

４月10日，本校元職員の二宮 嘉城先生が来校されました。「新しく来られた校長先生には，皆さんにお話ししている。是非心に留めていただきたい。」とのことで，「大場小学校のピアノ*」について，資料を示しながら次のようにお話しされました。

*グロトリアン・スタイソウィッヒ(西独製)　製造年1886年　製番6207

大場小学校のピアノ（伝説のピアノ）

大場小学校入学時(昭和14年)から「資料室にあるピアノは山崎の飛田卓さん(1年先輩)の叔父さんが，日露戦争のとき旅順の戦いに勝利した乃木大将と敵のロシアのステッセル将軍が会見したおり，将軍の世話をした飛田大佐が気に入られ将軍愛用のピアノをプレゼントされた。凱旋のとき故郷の大場村に持ち帰り大場小学校に寄附したもの」と先輩たちに教わり昭和63年まで信じ切っていた。

ところが，昭和62年に赴任してきた第24代校長の根本順弘氏が学校の玄関に置いてある朽ち果てたピアノに目をつけ，平山ピアノ社の社長に会ってピアノのいわれを聞き修復を思い立った。そのことが日本国中の新聞に掲載された。

昭和63年修復の運びとなり平山ピアノ社の手で校舎から修理工場に運ばれていった。平成元年5月には修復に成功して学校に戻ってきた。14日にはピアニストの津田真理さんを招いて修復記念講演会を開き，名器の音色に参加した人々はうっとりと聞き入った。

そして，このピアノのことがいろいろと分かってきた。

①日露戦争(明治37･38年戦争)で，東郷平八郎大将率いる日本海軍とロシアのバルチック艦隊が日本海で戦ったおり(明治38年5月日本海海戦)，ロシアの戦艦アリヨールを拿捕した。その中に積まれていたのがこのピアノではないかと日露戦史研究家の大戸宏氏(富山県金沢市)の手紙で知った。それが長い間横須賀の海軍工廠の兵器庫に保管されていた。(当時日本では洋琴と言っていた)

②それを知った海軍主計特務少尉の飛田一成氏(東茨城郡大場村山崎出身･明治17年ー昭和47年6月　行年88歳)が，妻里子(飛田穂洲の妹)の生まれ故郷大場村への望郷と大場小学校への愛校心に感激し,妻の遺言で海軍工廠にあるピアノを小学校に贈る事を思いついた。(「美しき心の記念として」参照)

③この旨を海軍省に願い出たが，個人には払い下げはできないと言うことなので大場小学校の第8代校長の長山藤之助先生から，学校へ寄附をお願いする形で海軍省と交渉した。
その結果，海軍省も快諾し払い下げが決まった。(官房第四〇八九号参照)
大正12年2月横須賀から水戸までの輸送費(当時120円)を飛田氏が地域の方からの寄附も得て支払い，水戸からは牛車で塩が崎経由で大場小学校まで運ばれてきた。

当初は式典で君が代とか式歌ぐらいにしか使われなかったが，戦後は音楽の時間に使われ昭和41年頃から傷みがひどくなり，廃棄しようと言う話も出たが玄関に陳列しておいた。

ドイツのグロトリアン･スタイソウィッヒ社からは「本社の製品に間違いない」との証明書が届けられた。

また息子の飛田一成氏の息子の保一氏から「美しき心の記念として」や海軍省の書類を見せられた。また，「父は海軍なので陸軍の乃木大将とは一緒にならないし，日露戦争にも参加していません。父の名誉のために訂正してください。」との申し入れがあった。

平成5年2月には作家の五木寛之氏が「ステッセルのピアノ」取材のため来校し，同時に日本テレビなどによってこの様子が放映された。

平成6年2月には水戸市立博物館で「伝説のピアノ特別陳列展」(写真のみ)が開かれた。(水戸のピアノ･旭川のピアノ･金沢のピアノ･遠軽のピアノ)

現在は，年1回音楽室でピアニストを招いて校内演奏会を開いている。

＊二宮氏の話を忠実に書き起こしたつもりですが、誤記があった際にはご容赦願います。　＊写真は「五木寛之氏とピアノ」

最後に，「このピアノは大場小学校にあるから価値がある」とおっしゃられた言葉に，ここに勤めることのできる喜びと，責任の重さを感じました。